

## 1 - 2 形態・意匠

### (1) 形態

・周辺景観との調和に配慮し、全体的にまとまりのある形態とする。

景観区：

#### 【解説】

建築物の形態・意匠がまちなみの景観に与える影響は大きく、自己主張の強い建築物はそれ自体のデザインの評価に関わらず、地域の景観を損なう可能性があります。

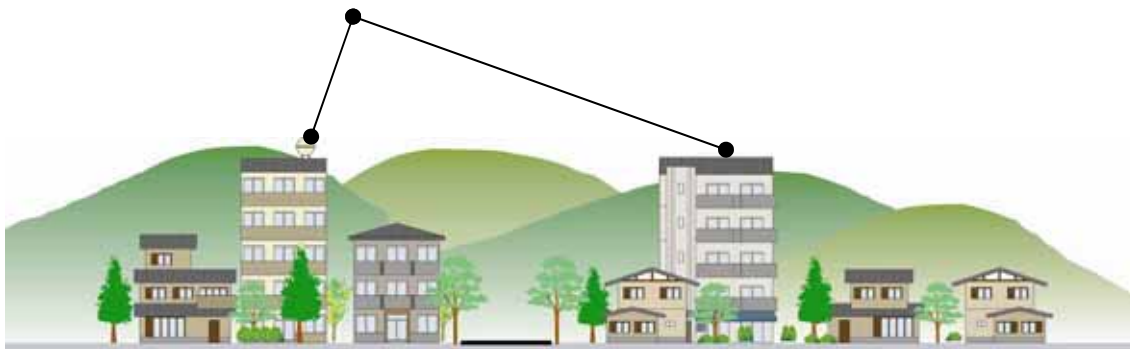
建築物の形態は、周辺景観を形成している自然景観や既存の建築物などの形態・意匠に配慮したものとします。また、外壁に付帯する施設・設備についても、建築物と一体的にデザインします。

特に、大規模建築物は、周辺に多大な影響を及ぼすことから、ヒューマンスケール（人間の体を設計基準にして決めた空間）に配慮したデザイン的な工夫を行うことが必要です。

#### 建築物の形態への配慮

建築物の形態は、周囲の建築物との連続性や統一感が感じられるものにします。

違和感を感じさせる例



背景の山並みに調和させた例



### 建築物のスケール感への配慮

大規模な建築物の長大な壁面や大面積の壁面は、周辺地域に圧迫感を与えたり、周辺地域のスケール感を損なうことのないよう、工夫します。



建築物の高層部の壁面を後退させることで、圧迫感を抑え、まちなみの持つスケール感を維持した例

### (2) 屋根の形態

- ・ 周辺建築物の屋根が入母屋や切妻などである地区では、これらの屋根の形態との調和を図るため、また、周辺に山稜または樹林地がある地区にあっては山稜又は樹木の形態との調和を図るため、原則として、勾配屋根を設ける。

景観区： 緑

- ・ 屋根の形状などを工夫することにより、周辺の山稜、樹林地と調和させる。

景観区： 低  中  一  沿  近  商1  商2  準  工

#### 【解説】

勾配屋根は長い歴史のなかで受け継がれてきた形態であり、大津市においても多くの地域で景観の特徴の一つとなっています。また勾配屋根は、景観の背景となる山なみや樹木の勾配（角度）をもった輪かくにも調和しており、人々の心に奥深く溶け込んだ日本建築の象徴ともいえます。

勾配をもった山並みや樹木を背景とした地域や勾配屋根をもつ建築物で形成された地域では、違和感をかもし出すような屋根の形態は避けます。



地域固有の伝統的な入母屋造の屋根デザインを踏襲することで、特徴ある集落景観を維持している例



集合住宅の屋根を切妻の勾配屋根とすることで、隣接する伝統的な木造建築物との調和したデザインとした例



地域特性である酒蔵のまちの屋並みの連続性に配慮し、勾配屋根とした工場の例

### (3) 屋上設備

・屋上設備は、目立たない位置に設け、建築物本体及び周辺景観との調和に配慮する。これにより難しい場合は、目隠し措置など修景措置を講じる。

景観区：すべて

#### 【解説】

屋上に設置される設備機器や塔屋などは、まちなみやスカイラインに大きな影響を与えるものです。特にタンクや室外機などが剥き出しとなった建築物は、例え建築物自体が魅力あるものでも、周辺の景観を大きく損なう恐れがあります。

屋上に設置される設備機器や塔屋などは、通りから見えない位置に設置したり、できるかぎり建築物と一体的にデザインすることで、全体的にまとまりのある形態なるよう配慮します。やむを得ず通りから望見できる箇所に設備を設置する場合は、その設備が景観を阻害しないよう、壁面を立ちあげたり（パラペット）、ルーバーなどの目隠し措置を講じます。

特に、大津市の景観の特徴である背景の山並みや琵琶湖への眺望景観を阻害しないよう配慮します。

（眺望景観については、眺望景観基準編を参照のこと）

#### 建築物と一体的にデザインする

屋上設備は、建築物などとの一体的な印象となるよう、デザインを工夫します。



建築物の外壁と形態・意匠を合わせることで、建築物と一体的にデザインされた塔屋の例

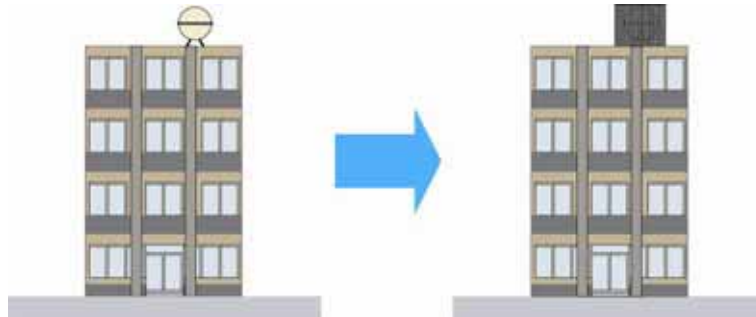


太陽光パネルを屋根材として一体的にデザインした例

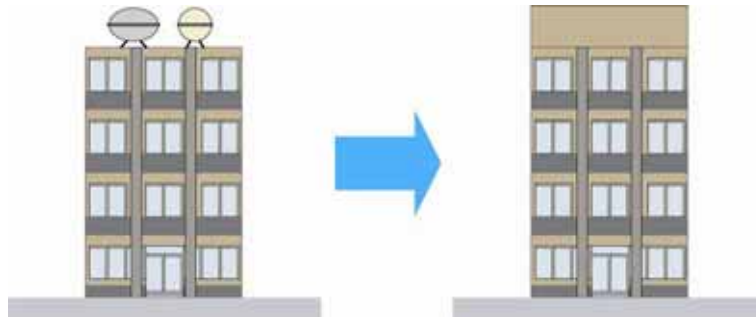
- ・ スカイライン : 山や建物などが空を区切って作る輪郭、空を背景とした輪郭線。
- ・ パラペット : 建物の屋上、テラスのへり、橋梁の両側などに設け、人の落下を防ぐ手すり・勾欄(こうらん)。
- ・ ルーバー : 日除け・雨除け・通風・換気などの目的で、建物の開口部に取り付ける一定幅の羽板を平行に並べたよろい戸状のものや、照明調整などの目的で、金属や樹脂の薄い板を格子状に組んだもの。  
羽板の取付角度によって、風・雨・光・埃・人の目線などを、選択的に遮断したり透過したりすることができる。

### 屋上の施設を隠す

やむを得ず露出する場合は、壁面を立ちあげたり（パラペット）、ルーバーなどの目隠し措置を講じ、建築物などとの一体的な印象となるよう配慮します。



通りから屋上設備が見える場合は、ルーバーなどで修景します。



屋上に多数の施設がある場合は、パラペットを立ち上げて屋上全体を目隠しします。



屋上の壁面（パラペット）を高く立ち上げることで、屋上の設備を目隠しした例



ルーバーにより、屋上の設備を目隠しした例



屋上の設備をパンチングメタルのフェンスにより目隠しした例



#### (4) 屋上工作物

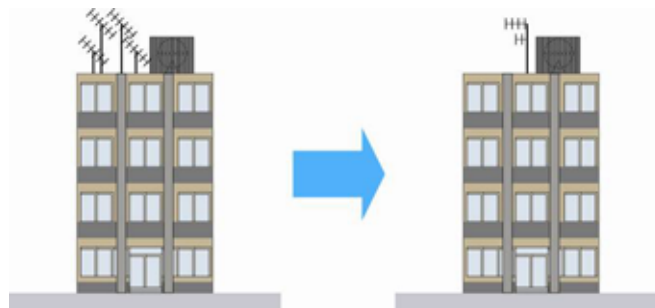
- ・屋上工作物は、建築物本体と調和を図るとともに、スカイラインに与える影響を軽減させるよう、すっきりとした形態とする。

景観区：すべて

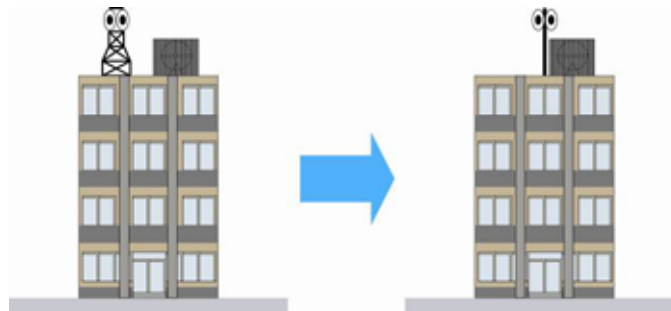
#### 【解説】

テレビアンテナなどの屋上工作物は、屋上設備と同様に、まちなみやスカイラインに大きな影響を与えるものです。

屋上工作物は、通りから望見できないようその設置場所を工夫したり、建築物と一体となってバランスのとれたものにするなどの配慮が望まれます。やむを得ず露出する場合は、共聴化や設置場所を1箇所にまとめるなど、できるかぎりすっきりとした印象になるよう、景観的処理を行います。



乱雑に林立したアンテナは、共聴化を図ります。



不調和な重量感のある形態は、すっきりとさせます。  
設備、工作物はまとめて設置します。

## (5) 意匠

- ・外見できる壁面などの意匠の釣合いに配慮し、全体としてまとまりのある意匠とする。

景観区：すべて

### 【解説】

景観の印象は、その地域全体の景観構成要素が集まって決定します。

特に大規模建築物は良く目立つことから、人目に付きやすい道路に面した正面部分だけではなく、側面や背面部の意匠についても配慮し、建築物全体にまとまりを持たせます。

外壁に付帯する室外機、屋外階段、配管設備などは、原則として外壁面に露出させないものとします。やむを得ず露出する場合は、建築物と一体的にデザインしたり、壁面と同色にするなどの景観的処理を行います。

また、ベランダなどについては、建築物との調和に配慮するとともに、洗濯物などが道路から直接見えにくい形態となるように工夫します。



正面の意匠のみに工夫をこらし、側面や背面の意匠に工夫のないものは、深みがなく味気ない景観となりがちです。

建築物の側面や背面の意匠についても、正面の意匠とのバランスをとり、まとまりを持たせます。

### < 室外機などのへの配慮の例 >

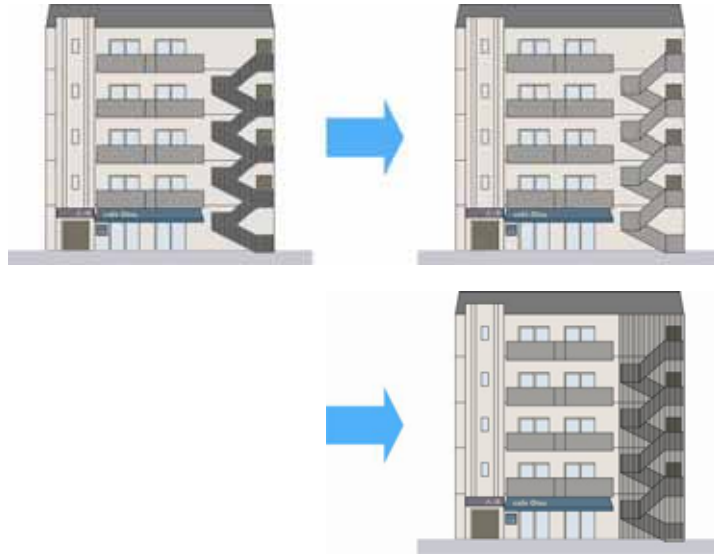


バルコニーに目隠し板を設置することにより室外機などの設備を隠した例



ルーバーなどにより室外機などの設備を隠した例

< 屋外階段への配慮の例 >



鉄骨を露出した屋外階段は避け、建物と一体的な意匠・色彩とします。  
やむを得ず露出する場合は、ルーバーなどで覆います。



屋外階段を建物と一体的な意匠・色彩とした例



屋外階段をルーバーにより覆った例





< ベランダなどへの配慮の例 >



洗濯物やエアコンの室外機が通りから見える構造、意匠は避けます。  
物干しや室外機を低い位置に設置し、外壁のデザインに配慮したパネルなどで覆うことで、すっきりとまとまりのある景観とします。



ベランダを外壁と一体的にデザインした例

・屋根、壁面、開口部などの意匠に配慮し、威圧感や圧迫感を軽減する。

景観区：すべて

【解説】

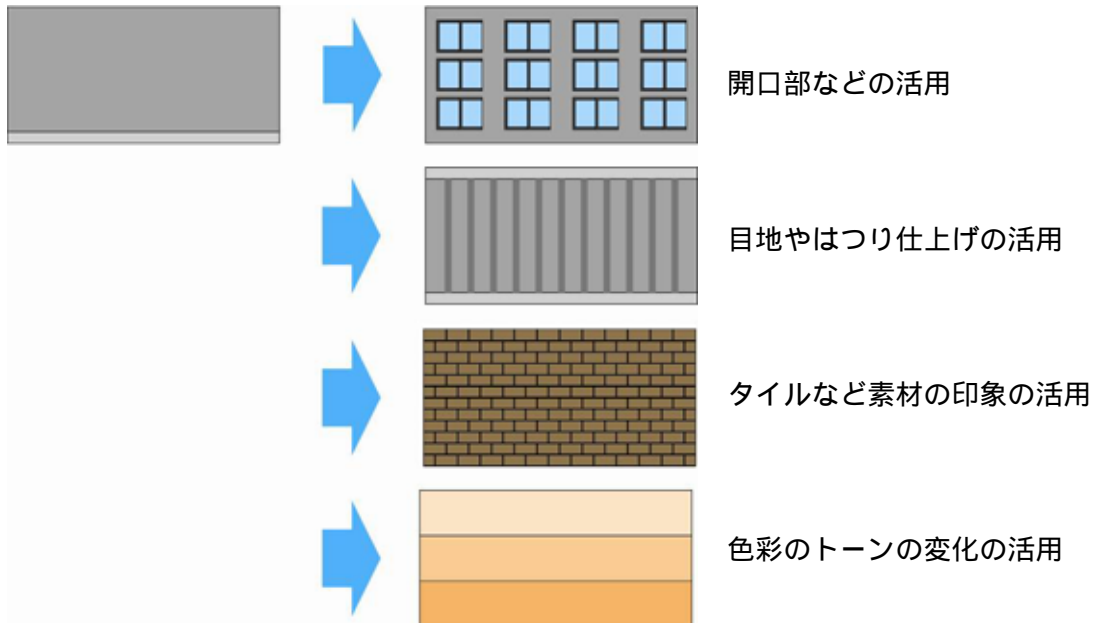
建築物の屋根、壁面、開口部などの意匠は、建築物の印象を決定する重要な要素です。

建築物の意匠は、「(1)形態」と同様に、周辺景観を形成している自然景観や既存の建築物などの形態・意匠に配慮したものとします。

特に、大規模な建築物の長大な壁面や大面積の壁面は、その壁面の印象が平滑・単調なものとならないよう、陰影効果を考慮して、表面の形状や色彩・素材などを工夫します。表面に柔和な陰影を持たせることで、圧迫感や威圧感を軽減し、周辺の景観との調和を図ります。同時に側面・背面の意匠にも配慮します。

## 建築物のデザインへの配慮

開口部のデザインや壁面の形状、色彩、素材などの意匠を工夫することで、周辺の景観との調和を図ります。



開口部の意匠を工夫し、壁面を凹凸のあるデザインとすることにより圧迫感を緩和した例



壁面を分節化することで周囲への圧迫感を緩和した例  
さらに格子状のルーバーを設けることで、壁面に変化を与えるとともに、歴史的まちなみとの調和を図っている



スリットを入れた壁面により圧迫感を緩和した例



上層階の外壁の色彩を変化させることで、圧迫感を緩和した例

- ・歴史的な景観を有する地域にあっては、外観意匠を極力和風基調のデザインとし、1階に軒・庇を設けるなど、周辺の伝統的建築様式との調和に配慮する。

景観区：低・中・一・沿・近・商2

### 【解説】

歴史的な景観を有する地域では、その歴史的な景観を保全・継承するため、周辺の伝統的建築様式と合わせた建築様式・意匠とします。やむを得ず伝統的な建築様式と合わせることが出来ない場合は、外観の意匠を和風基調のデザインとし、1階部分に軒・庇を設けるなど工夫します。



歴史的まちなみ景観との調和に配慮し、切妻平入り、和瓦葺き、虫籠窓など伝統的木造建築の様式を取り入れた例



歴史的まちなみ景観との調和に配慮し、土蔵建築の様式を基調とした形態とした例



隣接する伝統的な木造建築物に合わせて、傾斜屋根や一階部に軒を設けた例

